

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991700244		
法人名	株式会社 信玄		
事業所名	グループホーム カーサ西八幡		
所在地	山梨県甲斐市西八幡1707-1		
自己評価作成日	令和 5年 11月 10日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和 6年 2月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>◎その人らしく暮らせるように、快適で家庭的な生活をサポートします。                  ◎心を込めた親切なサービスに努め、その心を磨き続けます。                  ◎さまざまな機会を通じ、地域の人々とのふれあいを大切にします。                  上記3つのリネンを念頭に置きながら、認知症のご入居者様がマイペースに自分らしく生活できるように職員は支援している。新型コロナウイルス感染症防止のため外出レクは中止しているが、なるべく外へ出る機会を作り、心身共に健康に過ごせるように実践している。また、ご本人様やご家族様の希望により、在宅医や施設看護師、訪問看護と連携を取りながら看取りや健康管理を行い終の棲家として安心して生活できるように支援している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>医療を核としたネットワーク型QUEメデカルタウンの中に、株式会社『信玄』が運営する、シェール西八幡・カーサ西八幡・クレール西八幡が開設されています。近くに公園があり、近所には大型店舗が点在しています。管理者より、家族アンケートでは、『家族、利用者はサービスに満足していますか…』満足している評価でしたが、コロナ禍で外出支援ができなかった反省を踏まえ、まずは、事業所でレンタカーを利用してお花見に出かけてみました。利用者とスーパーへ買い物に出かけてみました。活用できる資源が地域に多く点在している利点を活かし、3つ目の理念「様々な機会を通じ、地域の人々とのふれあいを大切にします」に積極的に取り組んでいきたいと話がありました。今後も3つの事業所の交流により職員育成や研修の機会、情報交換等が活発に行われることを期待いたします。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) <b>(※窓越しの面会など距離をとった交流)</b>	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム カーサ西八幡**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( けやき )	ユニット名( さくら )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員に理念に基づいた支援が出来るよう意識の共有を図るようにしている。	各職員に理念に基づいた支援が出来るよう意識の共有を図るようにしている。	理念は1階の事務室内やフロアに掲示され、職員が身近に意識するようになっています。管理者より、「日頃その人らしく暮らせるように心を込めた親切なサービスを、職員で意識して取り組んでいます。」特に「心を磨き続けます」の一文は職員が現状に満足せず、常に職員同士で感じたことをオープンに話し合いができる職場環境づくりを心掛けています。」と伺いました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や防災訓練に参加させていただき、参加できるご入居者様は地域の方と交流している。また、散歩などに行った時はあいさつや地域の顔なじみの方と会話している。	地域の行事や防災訓練に参加させていただき、参加できるご入居者様は地域の方と交流している。また、散歩などに行った時はあいさつや地域の顔なじみの方と会話している。	2013年、甲斐市西八幡地区の医療を核としたネットワーク型の町づくり構想から、この地域が出来ました。当初はタウン内の託児所より子供たちが遊びに来たり等ありましたが、コロナ禍になり地域との交流ができない状態が続いています。毎日の散歩時のあいさつ等は行われていますが、今後は感染状況を見ながら、以前のような地域との交流を考えたいと管理者から伺いました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人で認知症サポーター研修を開催し地域の方に参加して頂き、理解を深めて頂きました。新型コロナウイルス感染症が落ち着いたら再び開催したいと思います。	同法人で認知症サポーター研修を開催し地域の方に参加して頂き、理解を深めて頂きました。新型コロナウイルス感染症が落ち着いたら再び開催したいと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	ご入居者様、ご家族様、甲斐市役所担当者、自治会長に参加していただき、2か月に1回開催している。運営推進会議で出たご意見・ご要望はすぐに職員に伝え共有し改善するべきと所は改善しより良い支援に繋がっている。	ご入居者様、ご家族様、甲斐市役所担当者、自治会長に参加していただき、2か月に1回開催している。運営推進会議で出たご意見・ご要望はすぐに職員に伝え共有し改善するべきと所は改善しより良い支援に繋がっている。	現在は2か月に1回、対面で運営推進会議を行っています。利用者の生活の様子や事業所行事の取り組み、事故や苦情についての報告等送付しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困ったことがあれば運営推進会議や直接甲斐市役所に出向くなどして相談させていただいている。また、市役所からの入居相談にも対応している。	困ったことがあれば運営推進会議や直接甲斐市役所に出向くなどして相談させていただいている。また、市役所からの入居相談にも対応している。	運営推進会議のメンバーとして甲斐市役所担当者の参加があります。昨年から、運営推進会議は対面で行っています。入居相談等連携しています。市町村の【介護相談員派遣事業】の実施については、感染防止の為、現在は実施していません。今後感染状況の様子により再開を検討しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の定義などを職員と共に理解し、やむを得ない場合は必ずご家族様に状況説明と同意をいただいている。2か月に1回身体拘束廃止委員会を行い廃止の検討を行っている。	身体拘束の定義などを職員と共に理解し、やむを得ない場合は必ずご家族様に状況説明と同意をいただいている。2か月に1回身体拘束廃止委員会を行い廃止の検討を行っている。	現在、身体拘束の必要な方はおりません。事業所必須研修として年間計画に組み入れ、身体拘束を行わないケアや言葉による行動制限について、職員研修を行っています。日頃の生活支援の中で、お互いに聞いたり見かけたら注意ができる、職場の環境と職員関係づくりの意識付けに取り組んでいます。(管理者ヒアリングより)	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で虐待防止の勉強会を行っている。今後も虐待防止に努め、職員へのストレス軽減も考慮した対話にも心がけるようにして行く。	会議等で虐待防止の勉強会を行っている。今後も虐待防止に努め、職員へのストレス軽減も考慮した対話にも心がけるようにして行く。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者権利擁護の研修には参加している。成年後見人制度の研修にも今後参加して行く。	高齢者権利擁護の研修には参加している。成年後見人制度の研修にも今後参加して行く。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は充分に時間を取り、ご入居者様、ご家族様が納得いただくまで説明をしている。ご入居された後も不明な点があればその都度お答えするようにしている。また、必ずご家族様の同意を得るようにしている。	契約の際は充分に時間を取り、ご入居者様、ご家族様が納得いただくまで説明をしている。ご入居された後も不明な点があればその都度お答えするようにしている。また、必ずご家族様の同意を得るようにしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム カーサ西八幡**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( けやき )	ユニット名( さくら )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご入居者様やご家族様とは意見交換しやすい関係が出来ており、面会時はなるべく施設側からも「何かありますか？」とお声がけさせていただいている。運営推進会議ではご家族様からの意見を伺う良い機会と捉え聞き入れ反映させている。	日頃からご入居者様やご家族様とは意見交換しやすい関係が出来ており、面会時はなるべく施設側からも「何かありますか？」とお声がけさせていただいている。運営推進会議ではご家族様からの意見を伺う良い機会と捉え聞き入れ反映させている。	家族の意見は、面会に見えられた時や運営推進会議時に聞いたり、ケアプランの見直し時に電話や、文書を送付して意向を伺ったりしています。このような取り組みが、今回の事業所自己評価の中で向上した項目として「職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています」との評価につながっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロアー会議では職員の意見を聞き、運営に反映させている。	毎月のフロアー会議では職員の意見を聞き、運営に反映させている。	管理者は日頃一緒に勤務を行う中で、職員から意見を聞く機会を意識してつくっています。職場の中で、お互いの意見や提案、気づいたことを注意することができる環境づくり、また、出された意見を検討し改善に繋げられるよう、チームとして取り組んでいます。(管理者ヒアリングにて)	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の社長や管理職等は各職員の良い面を把握し、より伸ばして行けるように声掛け・指導している。また、各職員の労働条件などを把握し働きやすい環境になるように心がけている。	法人の社長や管理職等は各職員の良い面を把握し、より伸ばして行けるように声掛け・指導している。また、各職員の労働条件などを把握し働きやすい環境になるように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護経験が浅い職員には先ず現場で管理者やリーダーが丁寧に教えるようにしている。また、フロアー会議で勉強会を行い知識を増やしてもらうようにしている。	介護経験が浅い職員には先ず現場で管理者やリーダーが丁寧に教えるようにしている。また、フロアー会議で勉強会を行い知識を増やしてもらうようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今現在は他施設交流は中止している。同法人のグループホームとは相互訪問等行えるのでお互いの知識の共有などをしながらサービスの質の向上を行っている。	今現在は他施設交流は中止している。同法人のグループホームとは相互訪問等行えるのでお互いの知識の共有などをしながらサービスの質の向上を行っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居者様とは納得がいくまで話をし、不安がないようにした上でサービスの導入をするように心がけている。	ご入居者様とは納得がいくまで話をし、不安がないようにした上でサービスの導入をするように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とは納得がいくまで話をし、不安がないようにした上でサービスの導入を行っている。また、ご入居者様の立場になり代弁者としてご家族様と支援の話し合いをしている。	ご家族様とは納得がいくまで話をし、不安がないようにした上でサービスの導入を行っている。また、ご入居者様の立場になり代弁者としてご家族様と支援の話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	納得がいくまで話し合いを行い情報収集をし、色々な方面から見て判断し、必要があれば他のサービス利用も検討しながら施設での生活が快適に行えるように支援している。	納得がいくまで話し合いを行い情報収集をし、色々な方面から見て判断し、必要があれば他のサービス利用も検討しながら施設での生活が快適に行えるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは生活の場であって職員は家族のような存在であるという気持ちを持つようにしている。よって、家族のように温かい気持ちでご入居者様も楽しく生活が出来ていると思う。	グループホームは生活の場であって職員は家族のような存在であるという気持ちを持つようにしている。よって、家族のように温かい気持ちでご入居者様も楽しく生活が出来ていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスがまん延した時は一時的に面会制限を行ったがご入居者様やご家族様の気持ちを考え面会は継続してできるように支援している。ご家族様が施設に来ることによって情報の共有や相談ができるようにしている。	新型コロナウイルスがまん延した時は一時的に面会制限を行ったがご入居者様やご家族様の気持ちを考え面会は継続してできるように支援している。ご家族様が施設に来ることによって情報の共有や相談ができるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム カーサ西八幡**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( けやき )	ユニット名( さくら )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達、知り合いなどの面会も場合によってはできるように支援している。コロナ禍前は友達が遊びに来たり、時にはご家族様の許可をいただいて友人宅に送り迎えをしたことがある。	お友達、知り合いなどの面会も場合によってはできるように支援している。コロナ禍前は友達が遊びに来たり、時にはご家族様の許可をいただいて友人宅に送り迎えをしたことがある。	コロナ禍になり、以前のように友人との交流ができない状況になっています。また、美容院も現在はまだ、訪問美容が入っています。最近になり楽器演奏ボランティアの受け入れを行い、徐々にレクリエーション活動を充実させる計画をしています。コロナ禍で利用者の外出はできませんでしたが、フロア内の創作活動が活発に行われ、たくさんの方が飾られていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士で会話が成立することが難しいので職員が間に入り、スムーズに会話ができるように支援している。	ご入居者様同士で会話が成立することが難しいので職員が間に入り、スムーズに会話ができるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要があれば相談・支援に応じている。	サービス終了後も必要があれば相談・支援に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	先ずはご本人様に聞いて可能な限り希望に添えるようにしている。ご本人様が言えない場合は今までの生活歴やご家族様に意見を聞き情報収集をして、ご本人様の希望に添えるような支援を心がけている。	先ずはご本人様に聞いて可能な限り希望に添えるようにしている。ご本人様が言えない場合は今までの生活歴やご家族様に意見を聞き情報収集をして、ご本人様の希望に添えるような支援を心がけている。	外部の相談機関として甲斐市の介護相談員の訪問は、コロナ禍で中止になっています。事業所では初めに利用者本人のお話を必ずお聞きし、意向が伝えられない利用者は、日々の関わりの中で言葉に表れたことや何気ない話の中から、職員がキャッチしたことをフロア会議に上げて検討しています。家族の面会時にも職員から必ず声掛けし、意向等をお聞きしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴、家族関係、趣味など情報収集を行い、家にいた時と同じような生活が継続して施設でもできるようにしている。	これまでの生活歴、家族関係、趣味など情報収集を行い、家にいた時と同じような生活が継続して施設でもできるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事と入浴以外にはあまり細かい決まりを作らず、マイペースに生活ができるようにしている。	食事と入浴以外にはあまり細かい決まりを作らず、マイペースに生活ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のフロア会議で各ご入居者様のカンファレンスを行っている。また、ご家族様にも意見を伺い介護計画にも反映させている。	月に1回のフロア会議で各ご入居者様のカンファレンスを行っている。また、ご家族様にも意見を伺い介護計画にも反映させている。	毎月【カーサ西八幡健康だより】で利用者の心身状態や医療面の情報を家族に報告しています。今回家族アンケートで、「本人の介護計画を家族にわかりやすく説明…一緒に内容に関する話し合いをしている…、本人の思いや願い要望をわかってくれている」等の家族評価が高く、本人を中心として家族・介護医療が連携して介護計画を立て、モニタリングに取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に支援経過を書いており、簡素に様子が分かるように記録し、どの職員が見ても分かるようにしている。また、全体の介護記録や引き継ぎノート・気づきノートがあり、情報の共有を図るようにしている。	個々に支援経過を書いており、簡素に様子が分かるように記録し、どの職員が見ても分かるようにしている。また、全体の介護記録や引き継ぎノート・気づきノートがあり、情報の共有を図るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度のニーズにはご家族様とも相談しながら柔軟に対応している。	その都度のニーズにはご家族様とも相談しながら柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム カーサ西八幡**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( けやき )	ユニット名( さくら )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前は近所の方達と散歩時の挨拶やお話をしたり、近所のお店を利用したり、顔なじみの関係でいられるように努めている。	コロナ禍前は近所の方達と散歩時の挨拶やお話をしたり、近所のお店を利用したり、顔なじみの関係でいられるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は家族対応で受診をお願いしているが、今は新型コロナウイルス感染防止のためなるべく施設対応で受診をしている。また、入居されている方全員が在宅医に訪問診療をお願いしている。	基本は家族対応で受診をお願いしているが、今は新型コロナウイルス感染防止のためなるべく施設対応で受診をしている。また、入居されている方全員が在宅医に訪問診療をお願いしている。	入居時に本人・家族の意向を確認し、基本的には在宅医の受診を行っています。事業所があるQUEメディカルタウンは、医療を核としたネットワーク型の町作り構想から造られ、整形外科、皮膚科、薬局、近隣の歯科医等の医療連携と、事業所の協力医との連携がとれています。また、事業所の看護師と訪問看護師、24時間の看護体制により家族の安心に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と施設看護師、訪問看護が連携しご入居者様の健康管理を行っている。夜間も電話相談や状況により訪問していただき、在宅医と連携しながらご入居者様やご家族様が安心して生活できるように支援している。	介護職員と施設看護師、訪問看護が連携しご入居者様の健康管理を行っている。夜間も電話相談や状況により訪問していただき、在宅医と連携しながらご入居者様やご家族様が安心して生活できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご入居者様が入院した際の情報提供は行っている。また、面会やカンファレンス等に出向き情報把握に努めている。	ご入居者様が入院した際の情報提供は行っている。また、面会やカンファレンス等に出向き情報把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の希望で在宅医や訪問看護・施設看護師・介護職員と連携を取りながら看取りを行っている。施設でできる事・できない事を説明し、話し合い、ご本人様やご家族様の意向を伺いながら対応している。また、看取りに関する職員研修も行い、ご入居者様やご家族様が安心して日々過ごせるように取り組んでいる。	ご本人様やご家族様の希望で在宅医や訪問看護・施設看護師・介護職員と連携を取りながら看取りを行っている。施設でできる事・できない事を説明し、話し合い、ご本人様やご家族様の意向を伺いながら対応している。また、看取りに関する職員研修も行い、ご入居者様やご家族様が安心して日々過ごせるように取り組んでいる。	入居時や身体状況に変化がある時、重度化対応や終末期の方針について意向の確認をしています。管理者より「事業所では10年間で20名の看取りに取り組んでいます。理念である「心を込めたサービスの提供」に対し、職員はその経験を活かし日々の生活支援を行っています。コロナ禍でも感染対策を行い、看取りに入れた利用者の家族は、居室での面会をしていただきます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フローア会議などで急変時における対応の勉強会を行っている。	フローア会議などで急変時における対応の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、ご入居者様にも参加していただき避難訓練を行っている。その際、消防署に立ち合いをお願いし、意見を聞きながらご入居者様が安全に避難できるように訓練している。	年2回、ご入居者様にも参加していただき避難訓練を行っている。その際、消防署に立ち合いをお願いし、意見を聞きながらご入居者様が安全に避難できるように訓練している。	ハザードマップでは、この地域は3メートル位の洪水の危険地域と考えられています。避難計画では1階から2階へ垂直避難を行う計画になっています。地域の消防団と連携して、年2回消防署の立ち合いの下、避難訓練の実施を検討しています。「今年1月に発生した地震災害を教訓に、水・電気・エレベーターが使えないことなど想定した訓練の必要性を実感しました。」(管理者ヒアリングより)	今年の1月に起こった大地震を想定し、同じ事業所内で連携した避難訓練も今後必要になってくるのが予想されます。実際に発生したらどのようなリスクが考えられるか等、協力して災害対策に取り組まれることを望みます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様は認知症である前に長い人生を歩んでこられた先輩であることを十分理解し、丁寧な声掛け、対応を心がけている。また、その方のペースに合わせたゆったりとした支援を心がけている。	ご入居者様は認知症である前に長い人生を歩んでこられた先輩であることを十分理解し、丁寧な声掛け、対応を心がけている。また、その方のペースに合わせたゆったりとした支援を心がけている。	生活支援の実践の中で、職員同士の会話や、トイレやバット等排泄等の話の時などは、特に利用者の名前を出さないように注意し、また、排泄にはプライバシーと尊厳に十分配慮するよう意識付けを行っています。身近なことから職員の言動や行動を振り返り、フロア会議での確認を行っています。年間研修計画では【人権と尊厳について】研修の予定をしています。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム カーサ西八幡**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( けやき )	ユニット名( さくら )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずはご本人様に確認し、希望が言える方は希望を伺っている。希望が言えない方はご家族様に聞くなどして、なるべく希望に添った自己決定ができるようにしている。	まずはご本人様に確認し、希望が言える方は希望を伺っている。希望が言えない方はご家族様に聞くなどして、なるべく希望に添った自己決定ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴の時間は決まっているが、それ以外はご本人様のペースに合わせた生活ができるようにしている。	食事の時間や入浴の時間は決まっているが、それ以外はご本人様のペースに合わせた生活ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の希望に添った服装、おしゃれができるように支援している。	ご本人様の希望に添った服装、おしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下に問題がある方もいるので、状態にあわせてペースト食やムース食にしたり、その方にあった形態で食事を提供している。また、テーブル拭きや食器拭きなどできる事はなるべくしていただくようにしている。	嚥下に問題がある方もいるので、状態にあわせてペースト食やムース食にしたり、その方にあった形態で食事を提供している。また、テーブル拭きや食器拭きなどできる事はなるべくしていただくようにしている。	食事は外部の委託業者が届けて、職員が個別に盛り付けています。好みや意向を聞きながらメニューへ反映しています。個別嗜好品として黒豆・ほうとうを購入し、個別に対応しています。利用者も職員と一緒にテーブル拭き、食器拭き、後片付け等の役割を行っています。近所の大型スーパーへヨーグルトの買い物など、職員と一緒に出かけられるようになってきています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は委託業者が考えたバランスの良い食事をあためて提供している。嚥下の状態にあわせて食事形態を変更し、安全に食事ができるように工夫している。水分摂取も確認を行い、少ない方には促したり、ゼリーなどで摂取していただいている。	献立は委託業者が考えたバランスの良い食事をあためて提供している。嚥下の状態にあわせて食事形態を変更し、安全に食事ができるように工夫している。水分摂取も確認を行い、少ない方には促したり、ゼリーなどで摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、できない所は介助をしながら行っている。ご本人様やご家族様の希望があれば訪問歯科とも連携がとれるように支援している。	毎食後口腔ケアを行い、できない所は介助をしながら行っている。ご本人様やご家族様の希望があれば訪問歯科とも連携がとれるように支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄の 패턴、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、各ご入居者様の排泄パターンを把握し、それに合わせてトイレの声掛け・誘導を行い、なるべくトイレでの排泄ができるようにしている。	排泄チェックシートを活用し、各ご入居者様の排泄パターンを把握し、それに合わせてトイレの声掛け・誘導を行い、なるべくトイレでの排泄ができるようにしている。	個人の排泄チェックシートを活用し、排泄パターンを把握しています。自分でトイレにいかれない方は、利用者のしぐさやパターンを把握して、時間で誘導を行い、可能な限りトイレでの排泄に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の日課としてラジオ体操を基本とした各体操を行い、体を動かして自然排便が出るように努めている。水分摂取量も把握し便秘の予防にも努めているが、それでも便秘になる方は主治医と相談し、下剤等の処方をしていただいている。	日々の日課としてラジオ体操を基本とした各体操を行い、体を動かして自然排便が出るように努めている。水分摂取量も把握し便秘の予防にも努めているが、それでも便秘になる方は主治医と相談し、下剤等の処方をしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は職員の配置が多い時間と決めているが、毎日入りたい方はなるべく入浴できるように支援している。	入浴の時間は職員の配置が多い時間と決めているが、毎日入りたい方はなるべく入浴できるように支援している。	浴室は一般家庭と同じ個浴槽になっており、自分でまたは浴槽に入られる方、また職員が支えて浴槽へ入られる方の支援を行っています。立位が困難な時はシャワーチェアでシャワー浴を行っています。季節のゆず湯や入浴剤を変えながら、香りを楽しむ工夫を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は各個人の休みたい時間に休んでいただいている。眠れない方は落ち着くまで夜勤者がフロアで対応している。夜間不眠で日中に影響が出てしまう方には主治医や専門医などに相談し薬の調整をお願いしている。	就寝時間は各個人の休みたい時間に休んでいただいている。眠れない方は落ち着くまで夜勤者がフロアで対応している。夜間不眠で日中に影響が出てしまう方には主治医や専門医などに相談し薬の調整をお願いしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム カーサ西八幡**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( けやき )	ユニット名( さくら )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何の薬を飲んでいるか各職員に把握してもらっている。また、看護師から適宜説明を行うようにしている。	何の薬を飲んでいるか各職員に把握してもらっている。また、看護師から適宜説明を行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の好きなことは積極的に行っていただくようにしている。じっくり取り組めなかつたりする事も多いが励ましたりお手伝いしながら支援している。	ご本人様の好きなことは積極的に行っていただくようにしている。じっくり取り組めなかつたりする事も多いが励ましたりお手伝いしながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか自分から希望を言える方は少ないが、歩行状況を見ながら公園まで散歩をしている。車イスの方も外気浴ができるように支援している。コロナ禍は中止していた外出レクも今年は再開した。	なかなか自分から希望を言える方は少ないが、歩行状況を見ながら公園まで散歩をしている。車イスの方も外気浴ができるように支援している。コロナ禍は中止していた外出レクも今年は再開した。	4月にはレンタカーを借りて花見ドライブ等へ出かけられるようになり、利用者の表情も活気があり、近所のお店への買い物へも行かれるようになりました。以前のように、これからも外出のレクリエーション活動を楽しみながら、コロナ禍で心身が固まっている利用者の気持ちをはぐしていきたいと、管理者コメントで伺いました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事務管理にらせていただいているが、少額ならご本人様が管理されている方もいる。買い物に行きたいと希望があれば付き添いを行い支援している。	基本的に事務管理にらせていただいているが、少額ならご本人様が管理されている方もいる。買い物に行きたいと希望があれば付き添いを行い支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙などの希望があれば、いつでも支援している。遠方のご家族様には電話を繋ぎ、お話しできるように支援している。	電話・手紙などの希望があれば、いつでも支援している。遠方のご家族様には電話を繋ぎ、お話しできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節感のある装飾をしている。室温も適温になるように気を付けている。また、車イスのご入居者様もいるため通路には歩行を妨げるような物は置かないようにしている。	共有スペースには季節感のある装飾をしている。室温も適温になるように気を付けている。また、車イスのご入居者様もいるため通路には歩行を妨げるような物は置かないようにしている。	コロナ禍でなかなか外出はできませんでしたが、フロア内の利用者創作活動が活発に行われました。廊下やフロアにはたくさんの方が飾られていました。利用者の歩行や車いす移動に危険が無いよう環境に配慮してました。また談話室を活用して、風船バレーやかるた取り、体操やゲームができる工夫を行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには1人になれる空間はないが、フロア以外にも所々にソファが配置してあるので、仲の良い方向士が話をしたり職員と話をしたり、思い思いに過ごせるようにしている。	共有スペースには1人になれる空間はないが、フロア以外にも所々にソファが配置してあるので、仲の良い方向士が話をしたり職員と話をしたり、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットやベッドは備え付けてあるが、家で使用していた物を持ち込んでいただき、家と同じような雰囲気でも過ごしていただけるようにしている。	クローゼットやベッドは備え付けてあるが、家で使用していた物を持ち込んでいただき、家と同じような雰囲気でも過ごしていただけるようにしている。	家と同じような雰囲気でも過ごしていただけるように、家族と一緒に部屋作りをお願いしています。各居室にはベッド・エアコン・クローゼット・机・イスが標準整備され、多くの利用者が自室にテレビを置いていました。「必要な物が標準整備されているので最近では持ち込まれる物が少ないようです。」と管理者ヒアリングで伺いました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設には防犯の為に万が一に備えて防犯カメラが設置されている。フロアや居室はバリアフリーとなっており、自由に行き来する事が可能。また、カメラに頼ることなく、見守りを重視しながらご入居者様が安全に生活が送れるように心がけている。	施設には防犯の為に万が一に備えて防犯カメラが設置されている。フロアや居室はバリアフリーとなっており、自由に行き来する事が可能。また、カメラに頼ることなく、見守りを重視しながらご入居者様が安全に生活が送れるように心がけている。		